

医療依存度の高い患者の在宅移行に向けた看護実践能力育成研修

	研修テーマ	研修レジメ
終末期の がん患者	1. 心身のアセスメントスキル a. 症状緩和 (1) 症状緩和の概論、倦怠感のケア (2) がん性疼痛ケア (3) 消化器症状(補液管理も含む)のケア (4) 呼吸器症状(在宅酸素も含む)のケア (研修時間 4時間)	(1) 症状緩和の概論と倦怠感のケア 1. 終末期のがん看護概論 2. 症状マネジメント概論 3. 倦怠感の症状マネジメント 4. 倦怠感の症状について事例検討 (2) がん性疼痛ケア 1. 痛みの生じるメカニズム 2. 痛みの評価とアセスメント 3. がんに伴う苦痛症状へのケア(薬物療法) 4. がんに伴う苦痛症状へのケア(非薬物療法) (3) 消化器症状のケア 1. がん性腹膜炎について 2. 食欲不振のアセスメントとケア 3. 嘔気・嘔吐のアセスメントとケア 4. 便秘のアセスメントとケア 5. 終末期の輸液管理について (4) 呼吸器症状のケア 1. 呼吸困難の定義 2. 呼吸困難のアセスメント 3. 呼吸困難に対する治療 4. 呼吸困難に対するケア 5. 在宅酸素療法について 6. 呼吸器症状について事例検討
	1. 心身のアセスメントスキル b. 終末期の患者・家族の精神的ケア c. 看取りのケア (研修時間 3時間)	b. 終末期の患者・家族の精神的ケア 1. がん患者の告知時の精神状態 2. コミュニケーション 3. 全人的苦痛の支援 4. 終末期の家族のケア 5. 親ががんの子どもへの病気の伝え方 6. 症状を伝える・共有する手段 熊本県の取り組み c. 看取りのケア 1. 日本人の望ましい最期 2. 看取りに関わる日本の状況について 3. 厚生労働省の施策について 4. アドバンス・ケア・プランニングについて 5. 患者の思いを知り支える 6. 身体的変化に応じたケア
	2. 皮膚障害への対応 (褥瘡予防とスキンケア) (研修時間 2時間)	1. スキンケアの基本 2. がん患者におこる皮膚障害とケア ① 放射線治療による皮膚障害 ② 化学療法による皮膚障害 ③ 浮腫による皮膚障害 3. 終末期がん患者の褥瘡ケア
	3. 放射線療法看護 ・放射線性皮膚炎と口腔粘膜炎のケア ・放射線治療の緩和照射 (骨転移、脊髄圧迫など)について (研修時間 1時間45分)	1. 放射線性皮膚炎とケアについて 2. 放射線性皮膚炎の軟膏処置の演習 3. 放射線性粘膜炎：口腔粘膜炎とケアについて 4. 口腔ケア用品の紹介 5. 緩和照射(骨転移と脊髄圧迫)について 6. 放射線治療室の見学
	4. 化学療法看護 (研修時間 2時間)	1. がん化学療法の基本的な知識 2. 在宅に必要な曝露対策 3. 在宅における経口抗がん剤内服中の看護の実際と管理 4. 代表的な副作用とその対応 (骨髄抑制・悪心・嘔吐・便秘・下痢・皮膚障害)
	5. 麻薬の管理 (研修時間 2時間)	1. がん性疼痛に関する基礎的知識 2. 療養の場におけるがん性疼痛に関するケアのポイント 3. PCAポンプの取り扱い(講義・演習)

	研修テーマ	研修レジメ
人工呼吸器装着患者	1. 人工呼吸器の仕組み (研修時間 2時間30分)	1. 在宅人工呼吸療法(HMV)について 2. 気管切開下陽圧管理(TPPV)について 3. 陽圧管理と自然呼吸の違い 4. 基本的な人工呼吸器モードについて 5. 人工呼吸の合併症と安全管理 6. 非侵襲的陽圧管理(NPPV)について 7. NPPV療法の実際と合併症への対応 8. 在宅用人工呼吸器、バッグバルブマスク、NPPVマスクの説明 9. 陽圧管理の体験、NPPVマスクフィッティング(演習)
	2. 人工呼吸器関連ケア ・気管切開管理 ・吸引操作	1. 気管切開の目的について 2. 気管切開管理について 3. 気管吸引の目的について 4. 気管吸引の種類について 5. 人工呼吸器管理中の気管吸引のポイントについて 6. 気管吸引の手技と手順について 7. 気管吸引時の合併症と対処法について 8. 気管吸引のデモンストレーションと体験
	・肺炎予防ケア(体位管理、肺理学療法) ・口腔ケア (研修時間 3時間)	1. 口腔の機能と役割 2. 口腔内の病気と全身疾患の関連性 3. 口腔ケアの基本ケア(歯みがき、洗口、粘膜ケア、保湿) 4. 口腔ケアのアセスメントと実際 5. 肺炎予防のための口腔管理、体位管理
	3. 感染予防 物品の洗浄・消毒 (研修時間 1時間)	1. 在宅ケアと病院医療の違い 2. 洗浄とは 3. 消毒とは 4. 消毒薬の種類と作り方 5. 具体的な管理と注意点 6. 手指衛生
	4. 家族アセスメント (研修時間 1時間30分)	1. 家族の機能と特性 2. 家族を理解するための理論 3. 家族エンパワーメントモデルについて 4. 慢性病を持つ患者の家族看護 5. 家族援助の実際 6. 渡辺式家族アセスメントを使用した事例展開
5. 心身のアセスメントスキル a. フィジカルアセスメント (1) 意識 (意識・呼吸・循環) (2) 呼吸	(1) 意識 1. 意識障害とは 2. 意識障害の原因 3. 意識障害と意識消失の違い 4. 意識障害の重症度分類 5. 意識障害のアイウエオチップス 6. バイタルサインから考えてみる意識障害 7. 意識レベルの評価方法 ~JCSとGCS~ 8. 麻痺の観察方法 9. 瞳孔の観察 ~対光反射の見方と瞳孔の所見~ 10. 意識レベル観察の指導上のポイント 11. FASTIについて (2) 呼吸 1. 呼吸とは 2. 呼吸の解剖・生理について 3. 酸素解離曲線について 4. 呼吸のアセスメントについて 5. 呼吸における問診のポイント 6. 呼吸における視診のポイント 7. 呼吸における触診のポイント 8. 呼吸における聴診のポイント 9. 副雑音の種類と特徴について 10. シミュレーターを使用して呼吸音の聴取	

人工呼吸器装着患者	<p>(3)循環</p> <p>(4)統合:意識、呼吸、循環</p> <p>(研修時間 4時間)</p>	<p>(3)循環</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環の基礎知識 循環組織を保つための3要素 心臓のポンプ機能を決定する因子 循環器のはたらき 2. 循環状態のアセスメント 視診:チアノーゼ、皮膚所見 口腔粘膜乾燥・口唇の乾燥・湿潤 頸静脈、意識状態 触診:冷感、脈拍 聴診:心音、血圧 胸部レントゲンから得られる情報:心胸郭比 その他:尿量、尿比重、経口摂取、飲水量 3. ショックについて 4. 体位性低血圧について <p>(4)事例の統合</p>
	<p>5. 心身のアセスメントスキル b.精神状態のアセスメント</p> <p>(研修時間 2時間)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体疾患と抑うつについて 2. せん妄について 3. ストレス反応とコーピングについて 4. 危機と危機への看護介入 5. 精神状態のアセスメント 6. 精神的アプローチについて
	<p>6. 安楽なポジショニング ・適切な用具の選択 ・廃用症候群予防ケア</p> <p>(研修時間 2時間)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃用症候群について 2. 長期臥床による各臓器の廃用症候群 ～筋骨格系／認知／呼吸器系／心血管系／尿路系／消化器系／皮膚系／皮膚系に及ぼす影響～ 3. 安静臥床に伴う悪循環 4. がんと廃用症候群 5. 化学療法と廃用症候群 6. 急性期からの廃用症候群のアセスメントポイント 7. 離床の基準 ～開始・中止～ 8. 急性期からの廃用症候群予防技術 9. 簡単な事例検討 10. ポジショニング／拘縮予防／徒手呼吸介助手技の演習
	<p>7. 皮膚障害への対応 (褥瘡予防とスキンケア)</p> <p>(研修時間 1時間)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機器によって起きる皮膚障害 ① NPPVマスク ② 気管チューブ 2. 同一姿勢によって起きる皮膚障害 ① 圧迫とズレの予防
	<p>8. 新生児の人工呼吸器管理とケア</p> <p>(研修時間 2時間)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイリスク新生児の急性期ケアの概要 2. ファミリーセンタードケアについて 3. NICUでの医療的ケア指導内容について 4. 新生児の異常呼吸の徴候と代表的な呼吸器疾患について 5. 新生児の脳室内出血と脳室周囲白質軟化症について 6. 在宅での人工呼吸器管理の流れについて 7. NICUから在宅移行時の主な人工呼吸器の種類とモードについて 8. 人工呼吸器のデモンストレーション 9. 人工呼吸器とパルスオキシメーターの観察項目について 10. 緊急時の対応について 11. 気管切開チューブの挿入体験

研修テーマ	研修レジメ
1. 脳卒中後の管理とケア (研修時間 1時間45分)	1. 脳の機能と解剖生理 2. 脳卒中(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)の病態 3. 脳卒中の治療 4. 脳卒中発症後のケア (高次脳機能障害・廃用症候予防・嚥下障害) 5. 脳卒中のフィジカルアセスメント 6. 再発予防教育
2. 糖尿病管理とケア (研修時間 2時間)	1. 糖尿病の基礎知識 1)インスリンの役割 2)高齢者糖尿病の特徴 2. 糖尿病の診断と治療 1)糖尿病の分類、血糖コントロールの目標 2)細小血管合併症、大血管合併症 3)食事療法、運動療法、薬物療法(内服・注射) 3. 糖尿病患者の療養支援 1)低血糖の対応 2)シックデイの対応 3)フットケア
3. ①慢性心不全の管理とケア	1. 慢性心不全の基礎知識 2. 再入院を予防するセルフケア支援 3. 在宅医療の役割とケアのポイント
3. ②慢性呼吸不全の管理とケア (研修時間 3時間)	1. 慢性呼吸不全の病態について 2. 慢性呼吸不全の症状マネージメント 3. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)について 4. 酸素療法について 5. 在宅療養における全人的マネージメント

慢性疾患を持つ患者（悪化予防）